

問 1

どの政党のどの政策を、抜き取られている。

問 2

(ウ)

問 3

対立を避け、政治的な党派性を回避し、なるべく政治的に中立でいようとすると、政治的中立という気持ちを感じさせる巧みな言葉を用いたパワー・ゲームに巻き込まれ、一方の都合がよいように使われ、中立にとどまろうとすればするほど、政治的な意味を持つてしまうから。

問 4

さまざまな価値が対立すること、そしてそれらのいずれにもコミットしないという意味での中立はありえず、なんらかの価値へのコミットメントを前提として、いろいろな価値が対立することを何度も確認し、それを根拠にして事実と価値の峻別を主張すると同時に、それらの価値を突き合わせ、それを検討するなかで、自分に対して自分の価値を明晰に自覚化することを求める考え。

問 5

意見や見解が分かれる問題に踏み込んで議論する中で、自分の考えと他者の考えの相違点を確認し、その違いがどのようなものかを認識し、それぞれの立場の理由を検討するというプロセスを経ることで自分の意見を持ち、自分で決めることができるようになっていくから。

問 6

「党派性」とは対立する様々な価値へのコミットメントを前提とし、その価値に関わる集団への賛否の態度を明確にして関わることだが、原発問題のように、意見や見解が分かれる問題に踏み込んで議論させないため、討論する政治文化の育っていない現代の教育現場の中で回避されてきた、特定の政策集団への立場を明確にする態度のこと。

二

問 1

- ① 言いようもないほど立派な様子で
- ② 熱心に申し上げなされたので

問 2

- X 存続（完了）の助動詞「り」の已然形
- Y 強意（完了）の助動詞「ぬ」の命令形

問 3

頼義は、九郎が着用している鎧は先日敵の手に渡せと指示したものでないかと指摘をし、それに対して九郎は、指示を守り現在では別の鎧を着用していると答えた。

問 4

九郎の出で立ちが、それを羨んだ味方に真似をさせ、財力を衰えさせるような悪影響をもたらすと考えていたため、見映えのしないたいそう古びた鎧を着用している今なら、その心配がないと思われるから。

問 5

ア 見た目にかかわらず、用途に役立つ性能を満たしているかどうかという点。

イ 総じて、見た目が派手なものは敵の目につき狙われやすいので、思いがけず命を落とすに違いないと思われるから。

三

問 1

- ① 振り払いようがなくてつらかったなあ
- ② 我が物顔で振る舞うのである
- ③ 気味が悪く恐ろしいとお思になる

問 2

昨夜は姫君に对面できずに帰ったけれども、遠い道のりをやってきた自分を今夜までも帰すこととはなく、ぜひ逢ってほしいということ。

問 3

姫君の屋敷からよくない物の怪の気配がするので、重篤な病人がいるかもしれないと思って素通りできなかったから。

問 4

男君からの手紙が巻かれて置いてあるのを見つけた阿闍梨の君が、よくない物の怪の仕業であることを指摘しつつ手にしたのを見ると、それは手紙ではなく大きな蓮葉であり、阿闍梨の指摘が正しいと分かって恐怖を覚えたから。

問 5

かつて恋仲だった男君のふりをして物の怪が姫君に接近し、取り憑いて惑わし、最悪の場合は姫君が殺されてしまうような事態。

四

問 1 家人はあわてて、病気の商人を箱に入れ、郊外の安全な場所まで運び出し、再度家に荷物を運びに戻ったので、その箱を見守る人は誰もいなかった。

問 2 どろぼうが中身を盗もうと箱の蓋を斧で壊して開けたところ、思いがけず人間が入っていたから。箱の中から頭を上げて見回すと、激しい炎が上がり黒煙が立ち込めており、さらに多くの人々が泣き叫ぶ大きな声が聞こえたから。(五十九字)

問 4 傍らに老叟の亦た火を避くる者有り。

問 5 因りて語るに夜来の大焼(の)事を以てす。

問 6 病気の商人が、家人により箱に入れられて安全な場所まで運び出され、その後どろぼうによって蓋を壊されたので箱の中から抜け出すことができたということ。

問 7 ㉑すでに ㉒また ㉓すなはち ㉔ますます
(わ)